

無核性のブタン「ボナルーナ」の紹介



写真1 「ボナルーナ」果実
(♀「土佐文旦」×♂「水晶文旦」)



写真2 「ボナルーナ」着果の様子

(京都大学, 広島県, 高知県が共同で品種登録)

表1 露地栽培「ボナルーナ」の開花特性

品種名	発芽日	開花始	開花盛	開花終
ボナルーナ	3/19	4/22	5/4	5/13
土佐文旦 (対照)	3/22	4/25	5/5	5/8

注) 2020-2023年の平均値

注) 発芽日：芽の過半数が3mm以上に伸びたとき
開花始：つぼみが連続して開花し始めたとき
開花盛：つぼみの80%程度が開いたとき
開花終：過半数の花が褐変または落弁したとき

表2 露地栽培「ボナルーナ」の果実特性

品種名	収穫日 (年/月/日)	果重 (g)	着色 程度 (1-10)	果肉歩合 (%)	種子数		糖度 (° Brix)	クエン酸 含量 (g/100g)	す上がり
					完全	不完全			
ボナルーナ	2018/12/18	546	9.0	53.1	3.0	25.8	8.3	1.36	無
	2019/12/24	448	9.5	56.8	1.8	22.0	8.6	1.36	無
土佐文旦 (対照)	2018/12/18	667	10.0	58.3	57.0	24.8	9.2	1.23	無
	2019/12/24	472	9.4	51.7	53.3	31.0	9.0	1.43	無

注) 完全種子：正常に発育した種子、食べるのに支障あり 不完全種子：発育が完全種子に比べて劣る種子、食べるのに支障がない

ブタンは本県の特産カンキツですが、果皮が剥きにくく種子が多い欠点があります。そこで、これらの欠点を補う、種子の少ない新しい品種「ボナルーナ」(写真1、2)について、果樹試験場で栽培試験を実施したので、その特性を紹介します。

「ボナルーナ」の発芽・開花時期は、「土佐文旦」と同程度であり(表1)、果実特性として、完全種子数が極めて少なく、12月に収穫した果実の糖度は、「土佐文旦」よりやや低く、クエン酸含量は同程度です(表2)。食味は「土佐文旦」に近く、さっ

ぱりとしています。このように、「ボナルーナ」は有望な品種ですが、「土佐文旦」と同様に凍害によるす上がりが発生する危険性があるため、今後は本県における露地栽培での収穫適期の解明および施設栽培での高品質安定生産技術の開発等に取り組んでいきます。

なお、本研究の一部は、農研機構生研支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業(JPJ007097)にて実施しています。

(果樹試験場 戸梶裕太 088-844-1120)